
平成 25 年度（2013 年度）事 業 報 告 書

（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）

学校法人 共 済 学 園

平成 25 年度（2013 年度）

事業報告書

目次

I 学園の概要

1. 設立の背景と理念	1
2. 設置する学校・学部・学科等	1
3. 学生数	2
4. 専任教職員数	2
5. 役員数	2

II 事業の概要

1. はじめに	3
2. 大学について	3

III 財務の概要

1. 資金収支計算書	11
2. 消費収支計算書	12
3. 貸借対照表	13
4. 計算書類（別刷）	

学校法人 共済学園

I 学園の概要

1. 設立の背景と理念

我が国は、第2次世界大戦の敗戦により荒廃した社会の中で文字どおりゼロからスタートしました。そして戦後69年を数え、この間、国民のたゆまぬ努力により、科学技術の高度な進展とともに工業技術の発展を遂げ、世界有数の経済大国・技術大国に成長しましたが、人間性の高揚においては未だしの感あり、今後は文化大国を目指して、前進致さねばなりません。一方、乳幼児死亡率の低下と公衆衛生の向上により国民の寿命は飛躍的に延び、今日ではいわゆる高齢化社会を迎えたところであり、今後ますます高齢者が増加すると予測されています。

このような高齢化社会にあって、すべての国民が豊かな老後を過ごすためには、国民一人ひとりが心身ともに健康で生甲斐をもって日々充実した生活を送ることが必須であります。このために医学の分野のみならず、保健医療福祉の分野の充実・拡充が急務となっております。

今日の医療現場では、医師のみならず看護師、臨床心理技術者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士その他の医療専門スタッフがチームを組み、一体的にケアに当たるいわゆるチーム医療の必要性が叫ばれており、それぞれの専門職の養成と資質の向上が緊急の課題となっております。

このような社会の要請に鑑み、私たちは、保健医療分野の充実を図るため「日本保健医療大学」を設立し、気品の泉源、智徳の模範を目指し「人間性（儒教の三綱五常の精神を基本とする）の高揚と、共存共栄の精神（共済主義精神、又は共済主義）」を理想に掲げ、高度の専門性を持って幅広く活動できる保健医療の専門職を育成し、人類の平和と高度な文化の実現に貢献しようとするものであります。

2. 運営する学校・学部・学科等

- 日本保健医療大学 (平成22年4月開校 平成21年10月30日 設置認可)
- 保健医療学部
- ・看護学科

3. 日本保健医療大学の入学定員・収容定員・在籍者数等

保健医療学部 入学定員 100人 収容定員 400人 ()は男性数

	1年生 (25年度生)	2年生 (24年度生)	3年生 (23年度生)	4年生(卒業生) (22年度生)	合計
看護学科	125 (27)	115 (28)	117 (23)	109 (20)	466 (98)
学年留保	0	0	1 (0)	5 (2)	6 (2)
在籍合計	125 (27)	115 (28)	118 (23)	114 (22)	472 (100)

(H26.3.31現在数)

4. 専任教職員数

教員

	教授〔学長〕	准教授	講師	助教	助手	合計
基礎系	5	0	2	0	0	7
看護系	8	7	3	4	3	25
計	13	7	5	4	3	32

※非常勤教員：45、非常勤助手：17

(H26.3.31現在数)

職員

事務局長	1
教務課	2
学生課	3
総務課	6
計	12

(H26.3.31現在数)

5. 役員数

	定員	現員
理事	10～12	11
監事	2	2
評議員	21～25	24

(H26.3.31現在数)

II 事業の概要

1. はじめに

平成 25 年度は昨年に引き続き、四回生となる入学生を受け入れた。その中で、4 年目ということで認知度の高まり等から、志願者数も増加してきており、保健医療学部看護学科の定員 100 名に対し、入学者としては定員の学生数を確保することができた。看護師・保健師の資格取得志向が強まる中、本学の理念が受験者や保護者に受け入れられたものと考えている。

専任教員に対しては、FD に関する研修会として、本学の設立の趣旨・目的、運営の方法等についての講演や討議を行い、共通認識を深めた。また、外部講師による FD に関する講演会も実施した。新しく着任する専任教員を含め、全教員に対し、本学の基本方針を説明し、質疑等を行った。

学生に対しては、授業開始前にガイダンス期間を設け、日本保健医療大学の理念、日本保健医療大学が求める学生像、教育目標、学部学科の特色、授業科目の履修、学生生活等について詳細な説明を行った。また、アドバイザーリーグループ制度、学級担任、学習指導教員、Student Life 委員などによる指導、支援も逐次行い、新たに学生支援室を設置し、充実した学生生活を送れるよう取り計らっている。

今後は学年の進行に合わせて、計画に基づいて教育課程の実施を着実に行うとともに、一層の教育効果の向上を目指して教育方法等の工夫に努めたい。

2. 大学について

(1) 事業の概要

大学校務に関する事

- ・平成 25 年 4 月 2 日 第 4 回入学式・保護者説明会
- ・平成 25 年 4 月 3 日～5 日
新入生、在学生ガイダンス・健康診断
- ・平成 25 年 4 月 8 日 前期授業開始
- ・平成 25 年 5 月～10 月 地域看護学実習（4 年生 109 名）
地域診断・市町村等実習（22 市町村）
保健所実習（12 保健所）
学校保健実習（9 小学校、3 中学校）
産業保健実習（3 企業）
- ・平成 25 年 8 月 5 日～9 月 6 日
基礎看護学Ⅱ実習（2 病院、12 病棟、117 名）
- ・平成 25 年 9 月 9 日～9 月 21 日
課題別臨地実習、病院・施設等へ（4 年生 109 名）

- ・平成 25 年 9 月 30 日～平成 26 年 3 月 28 日
領域別臨地実習に半年間、病院・施設等へ（3 年生）
- ・平成 26 年 3 月 7 日 第 1 回学位授与式（卒業式）
- ・平成 26 年 3 月 10 日～3 月 21 日
基礎看護学 I 実習（2 病院、13 病棟、124 名）

- ・平成 26 年 2 月 15 日～3 月 23 日
英国留学（8 名が 3 週間～4 週間、Bell London に留学）

入試

- ・平成 25 年 8 月 25 日 第 1 回 選抜入試
- ・平成 25 年 9 月 16 日 第 2 回 選抜入試
- ・平成 25 年 10 月 6 日 第 3 回 選抜入試
- ・平成 25 年 11 月 3 日 第 4 回 選抜入試
第 1 回 推薦入試
- ・平成 25 年 11 月 16 日 第 5 回 選抜入試
第 2 回 推薦入試
- ・平成 25 年 12 月 8 日 第 6 回 選抜入試
第 3 回 推薦入試
- ・平成 25 年 12 月 22 日 第 7 回 選抜入試
第 4 回 推薦入試
- ・平成 26 年 1 月 11 日 第 8 回 選抜入試
第 5 回 推薦入試

- ・平成 26 年 1 月 25 日 第 1 回 一般入試
- ・平成 26 年 1 月 26 日 第 2 回 一般入試
- ・平成 26 年 2 月 2 日 第 3 回 一般入試
- ・平成 26 年 2 月 3 日 第 4 回 一般入試
- ・平成 26 年 2 月 11 日 第 5 回 一般入試
- ・平成 26 年 2 月 22 日 第 6 回 一般入試
- ・平成 26 年 3 月 1 日 第 7 回 一般入試
- ・平成 26 年 3 月 9 日 第 9 回 選抜入試
- ・平成 26 年 3 月 24 日 第 10 回 選抜入試

- ・大学入試センター試験利用入試：4回実施

大学説明会

- ・平成25年6月19日 高校教員向け説明会 (24高校参加)

オープンキャンパス

- ・平成25年7月7日
- ・平成25年8月11日
- ・平成25年8月31日
- ・平成25年9月22日
- ・平成25年10月26・27日
- ・平成25年11月24日
- ・平成25年12月24日

地域貢献

○子ども大学さって

- ・9月14日(土) 13:30~16:00 [第1回目]

戸田幸男 子ども大学学長(幸手市教育長)の開校挨拶の後、入学生紹介(幸手市の小学4年生~6年生32名)があり、学生代表のことばの後、渡辺邦夫幸手市長と平良専純学長が来賓祝辞を述べた後、記念撮影を行い、記念植樹を行った。

終了後、3階の階段教室に移動し、第1回目の講義を受けた。

【はてな学】「からだの中をのぞいてみよう」 受講者30名

講師 松山永久 日本保健医療大学 病理学 講師

- ・10月27日(日) 10:00~11:30 [第2回目]

【はてな学】「けがをしたときの手当のしかた」 受講者29名

講師 近藤誓子 日本保健医療大学 基礎看護学 准教授

佐藤尚子 日本保健医療大学 基礎看護学 助教

下嶽ユキ 日本保健医療大学 基礎看護学 助教

臼井佳子 日本保健医療大学 基礎看護学 非常勤助手

・12月14日(土) 13:30~16:00 [第4回目]

【はてな学】「コンピュータの計算のしくみ

～コンピュータのことば 0と1～」 受講者30名

講師 金海哲也 日本保健医療大学 情報科学教員(事務局長)

講義終了後に修了式が行われ、戸田幸男 子ども大学学長(幸手市教育長)から修了証が授与された後、関係者全員で記念撮影を行った。

○公開講座

第7回目 平成25年11月30日(土) 13:00~16:00

テーマ 健康長者になろう Part II

～いつまでも元気で過ごすために～

講演1 「ロコモを予防して健康長寿者になろう

～日頃から運動器を鍛えよう～

講師 木村 好秀 日本保健医療大学 客員教授
東京産婦人科医会 常務理事

講演2 「ロコモ体操 ～骨と筋肉 鍛えよう～

講師 石川 みち子 日本保健医療大学 老年看護学 教授
山岸 千恵 日本保健医療大学 老年看護学 准教授
木内 千晶 日本保健医療大学 老年看護学 講師

対象 幸手市民

入場者 86名

場所 日本保健医療大学 講義室2・3

○栗盛須雅子教授が、第5次幸手市総合振興計画審議会委員を委嘱され、第5次幸手市総合振興計画後期基本計画策定に携わった。

○11月2日(土) 幸手市健康福祉まつりに、医療系大学のボランティアサークル活動として、数名の学生がブースに参加した。

施設・設備・備品の整備等

- ・図書館の照明をLED蛍光灯を追加した
- ・1階の図書館事務室の隣りに就職支援室を整備した
- ・Windows XP のサポート終了に伴う、アップグレード 計 83 台
- ・中講義室 1・2 にプロジェクターを設置した
- ・非常勤講師控室にノートパソコン 2 台と作業用デスクを 2 セット整備した
- ・非常勤助手控室のデスクを作業性の良いものにした

以上

(2) 学生募集状況

平成 26 年度の入学試験は、選抜入試 10 回、推薦入試 5 回、一般入試 7 回と昨年度に引き続いてセンター試験利用入試を行った。5 年目ということで認知度の高まり等から、志願者数の増加を期待したが、近隣における看護学部等の新設大学の影響を少なからず受けた形となり、保健医療学部看護学科の定員 100 名に対し、昨年より志願者数を減らす結果となったが、入学予定者としては定員以上の学生数を確保ができた。昨年度同様に、オープンキャンパスを 7 回実施したが、参加者数を増やすには至らなかった。首都圏における看護系大学の増設及び定員数の増加のため、オープンキャンパス参加者数、志願者数ともに僅かながら減少傾向にあることから、学生募集に関して新たな方策を進めている。但し、偏差値は埼玉県内の看護学部等では上位に位置している。

平成 26 年度入学試験状況及び入学者数 (H26. 3. 31 時点)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦	27 (7)	27 (7)	27 (7)	27 (7)
公募制推薦	27 (9)	27 (9)	22 (7)	21 (7)
社会人・AO	40 (15)	38 (14)	22 (9)	19 (8)
一般入試	167 (40)	158 (40)	78 (15)	44 (13)
センター入試	71 (12)	71 (12)	55 (8)	5 (1)
合計	332 (83)	321 (82)	204 (46)	116 (36)

() は男性数

(3) 卒業生の概況

平成25年度卒業生 進路（内定）調査結果

H26.3.31現在

	病院名	人数
1	埼玉県立病院	6
2	東大宮総合病院	6
3	柏厚生総合病院	4
4	筑波大学附属病院	4
5	久喜すすのき病院	5
6	三郷中央総合病院	4
7	埼玉県済生会栗橋病院	3
8	越谷誠和病院	3
9	千葉愛友会記念病院	3
10	メディカルトピア草加病院	3
11	板橋中央総合病院	3
12	自治医科大学附属さいたま医療センター	3
13	八潮中央総合病院	3
14	古河赤十字病院	2
15	国家公務員共済組合連合会九段坂病院	2
16	自治医科大学附属病院	2
17	東埼玉総合病院	2
18	津田沼中央総合病院	2
19	日本医科大学附属病院	2
20	羽生総合病院	2
21	日本大学医学部附属板橋病院	2
22	茨城西南医療センター病院	2
23	埼玉回生病院	2
24	久喜総合病院	2
25	千葉西総合病院	2
26	埼玉医科大学附属病院	1
27	幸手市健康福祉部健康増進課（ウェルス幸手）	1
28	J A長野厚生連 佐久総合病院	1
29	伊奈病院	1
30	医療法人財団健和会	1
31	川崎幸病院	1
32	横浜市立大学附属市民総合医療センター	1
33	国立国際医療研究センター病院	1
34	国家公務員共済組合連合会三宿病院	1
35	さいたま市立病院	1
36	聖隷三方原病院	1
37	湘南藤沢徳州会病院	1
38	昭和大学病院	1
39	信州上田医療センター	1
40	聖路加国際病院	1

	病院名	人数
41	多摩総合医療センター	1
42	千葉大学医学部附属病院	1
43	千葉徳州会病院	1
44	東京都福祉保健局	1
45	東京都立墨東病院	1
46	獨協医科大学越谷病院	1
47	名古屋徳州会総合病院	1
48	蓮田一心会病院	1
49	医療法人社団広恵会春山外科病院	1
50	東川口病院	1
51	船橋総合病院	1
52	明理会中央総合病院	1
53	山形県立病院事業局	1
54	山形大学医学部附属病院	1
55	山の上病院	1
56	横浜なみきりリハビリテーション病院	1
57	駒木野病院	1
58	立正佼成会附属病院	1
	合 計	107

◎埼玉県内の就職先：21 県外：37

□幸手市内就職先

就職先（病院・施設名）	人数
幸手市（ウェルス幸手） 健康福祉部健康増進課	1
東埼玉総合病院	2

□就職・進路先内訳（都道府県別）

都道府県名	人数	割合
埼玉県	52	47.7%
東京都	20	18.3%
千葉県	14	12.8%
茨城県	8	7.3%
神奈川県	4	3.7%
栃木県	2	1.8%
山形県	2	1.8%
静岡県	2	1.8%
長野県	2	1.8%
愛知県	1	0.9%
就職希望なし	2	1.8%
合計	109	100.0%

91.7%

(4) 幸手市との連携

本学の教育・研究成果を広く社会に公開し、地元の大学として幸手市民の健康福祉・文化の向上に資することを目的として、本学の教員及び客員教授が講師となり公開講座を行った。公開講座は、通算7回を数え、確実に地元根付いて来た。また、各種の幸手市関連行事にボランティアとして参画するなど、積極的に地域との交流を行った。

栗盛須雅子教授が、第5次幸手市総合振興計画審議会委員を委嘱され、第5次幸手市総合振興計画後期基本計画策定に携わった。

埼玉県の推進事業である「子ども大学さって」に、幸手市、幸手市青少年相談員協議会、幸手青年会議所と協力し、初年度4回実施のうち3回を日本保健医療大学で担当した。引き続き平成26年度も協力する予定である。

(5) 学園祭

11月23日(土)、24日(日)の2日間、第4回日本保健医療大学学園祭を開催した。4月に第4期生129名をリードして、新2年生が中心となって学園祭の運営に取り組んだ。

学習成果の発表や催し物、学園の発展を見に、2日間で延べ952名の保護者、幸手市民、幸手市関係者、大学関係者等が見学を訪れた。

看護系大学に相応しい医学・看護学の発表、健康チェックコーナー等、各グループの趣向を凝らした催しを楽しんで頂いた。

今年度の催し物の目玉として、熊坂准教授の長年にわたる研究のアニマルセラピーの講演会が行われた。実際にセラピードッグを使つての講演で、話に感動して涙する来場者も多く見られた。

また、地元地域の阿波踊りの方々に交じって、学生も事前に練習して当日一緒に阿波踊りに参加するなど、盛り上がったものになった。今年で2年目の取り組みとなる献血に88人の方が献血に協力いただき、感謝された。

(6) 看護学実習

看護学実習の目的は、学生が学内で学んだ看護に必要な専門的知識・技術・態度を実際の場面に応用し、看護の対象を全人的にとらえ、科学的根拠に基づいた看護実践ができる能力を養うことである。

本学では、看護学実習の位置づけは、4期に区分し、段階的な学習ができるように組まれている。

最初は、1年次後期 基礎看護学実習Ⅰとして、3月10日から3月21日の期間実施された。目的は、「看護の対象を「生活者」として理解し、看護への興味と関心を深め、4年間の学習を動機づけること」である。実習病院は、2施設13病棟に分かれ、臨地実習を終えた。1年生は、初めての臨地実習であることから、緊張しながらも患者様とコミュニケーションを円滑にし、信頼関係を築くことの大切さを学んでいた。

次に、2年次前期 基礎看護学実習Ⅱとして、8月5日から9月6日の期間実施された。実習目的は、「看護実践の中で対象を理解し、看護技術の適用や人間関係、看護過程を用いた看護の展開の仕方を学ぶ」ことである。実習病院は、2施設12病棟に分散し実施された。2年生の学習は2週間患者様を受け持ち自主的に看護実践を行ったことから、患者様との信頼関係を保つことや患者様が何を必要としているか、疾患の理解、看護の必要性等観察力を高め、患者様のニーズの理解ができるように学習を高めている。

次の段階として、3年次後期に計画されている領域別実習は、老年看護学実習（3施設5病棟）、成人看護学実習（4施設10病棟）、小児看護学実習（6施設）、母性看護学実習（7施設）、精神看護学実習（3施設）、在宅看護学実習（11施設）であるが、成人看護学実習は学生の学習効果を考慮し、慢性期実習・急性期実習の2領域としてあることから領域別実習7領域の臨地実習が行われた。実習の目的は、「人の発達の特徴を理解し、健康障害に対する看護のケアを実践していく学習」である。学生は半年間という長期間の臨地実習であったことから、学生自身の人間的成長を促し、既習の理論・知識の活用の仕方を学習する良い機会となっている。

学生は、臨地実習終了後、さまざまな人々と出会い人間的成長が見られ、忍耐力、相手を尊重することの大切さを学んでいた。更に、知識の統合と実践への応用について学ぶと同時に日頃の学習不足を自覚していた。

最終学年の4年次に計画されている地域看護学実習では、これまでの臨地実習の学びと自覚を活かされるかが課題となる。地域診断・市町村等実習（22市町村）、保健所実習（12保健所）、学校保健実習（9小学校、3中学校）、産業保健実習（3企業）等で、広く人々の生活を知り、健康状態とあわせた看護の必要性を学んだ。それぞれにおいて学びが大きく大変お世話になった。今後は、日本保健医療大学の第1期卒業生として、保健医療・看護の現場での活躍を期待する。

Ⅲ 財務の状況

平成 25 年度の財務の状況についてその概要を報告いたします。

1. 資金収支計算書

①資金収入

今年度は、主な科目としては学生生徒納付金収入が 8 億 8 百万円、幸手市からの補助金が 1 億円です。

②資金支出

主な科目としては人件費が 3 億 93 百万円、教育研究経費が 1 億 7 百万円、管理経費が 40 百万円、施設設備関係支出が 18 百万円で、収支差額から 3 億 61 百万円繰越支払資金が増加しました。

完成年度を迎え、施設設備の整備は一段落ついたため、22 年度 51 百万円、23 年度 99 百万円、24 年度 69 百万円に比べ金額は減少しました。

資金収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日から

平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金収入	806,000,000	808,370,000	△ 2,370,000
手数料収入	15,000,000	14,806,900	193,100
寄付金収入	2,000,000	2,000,000	0
補助金収入	100,000,000	100,000,000	0
資産運用収入	200,000	221,554	△ 21,554
事業収入	600,000	620,226	△ 20,226
雑収入	800,000	1,208,168	△ 408,168
前受金収入	219,241,000	216,940,000	2,301,000
その他の収入	67,050,000	67,137,250	△ 87,250
資金収入調整勘定	△ 219,241,000	△ 227,016,706	7,775,706
前年度繰越支払資金	835,218,567	835,218,567	
収入の部合計	1,826,868,567	1,819,505,959	7,362,608

(単位 円)

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	390,000,000	393,068,623	△ 3,068,623
教育研究経費支出	103,600,000	107,073,906	△ 3,473,906
管理経費支出	40,000,000	40,129,732	△ 129,732
施設関係支出	3,000,000	2,240,000	760,000
設備関係支出	23,000,000	18,230,955	4,769,045
その他の支出	92,328,258	87,437,443	4,890,815
資金支出調整勘定	△ 25,059,691	△ 25,142,917	83,226
次年度繰越支払資金	1,200,000,000	1,196,468,217	3,531,783
支出の部合計	1,826,868,567	1,819,505,959	7,362,608

2. 消費収支計算書

帰属収入は学生生徒等納付金、手数料、補助金等、学校法人に帰属する負債とならない収入で、今年度は9億29百万円でした。

基本金組入額は、学校法人がその活動を永続的に維持し、必要な資産を継続的に保持するために帰属収入から組入れた額で今年度は17百万円となりました。施設設備の整備終了分にあたります。

消費収入とは、帰属収入から基本金組入れ額を控除した金額で、本年度は9億11百万円でした。

消費支出は、教職員の人件費、教育活動及び法人の運営に必要な諸経費です。本年度は6億36百万円で、前年度の5億77百万円から59百万円増加しました。主な増加科目は人件費+29百万円、教育研究経費+24百万円、管理経費+4百万円です。

消費収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日から

平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金	806,000,000	808,370,000	△ 2,370,000
手数料	15,000,000	14,806,900	193,100
寄付金	3,000,000	2,170,500	829,500
補助金	100,000,000	100,000,000	0
資産運用収入	200,000	221,554	△ 21,554
事業収入	600,000	620,226	△ 20,226
雑収入	800,000	2,083,086	△ 1,283,086
帰属収入合計	925,600,000	928,272,266	△ 2,672,266
基本金組入額合計	△ 26,000,000	△ 17,407,143	△ 8,592,857
消費収入の部合計	899,600,000	910,865,123	△ 11,265,123

(単位 円)

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	391,000,000	391,962,070	△ 962,070
教育研究経費	183,600,000	195,613,182	△ 12,013,182
管理経費	47,000,000	47,461,315	△ 461,315
徴収不能引当金繰入額	0	1,570,000	△ 1,570,000
消費支出の部合計	621,600,000	636,606,567	△ 15,006,567
当年度消費収入超過額	278,000,000	274,258,556	
前年度繰越消費収入超過額	185,439,825	185,439,825	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費収入超過額	463,439,825	459,698,381	

3. 貸借対照表

平成 25 年度末(平成 26 年 3 月 31 日現在)の財政状態は、資産 20 億 48 百万円、負債 3 億 6 百万円、基本金と消費収支差額で 17 億 42 百万円となりました。

有形固定資産は 8 億 46 百万円で、前年度に対し 74 百万円減少しましたが、減価償却費の影響です。

流動資産の総額は 12 億 2 百万円で、前年度に対し 3 億 58 百万円増加しました。流動資産のうち現金預金は 11 億 96 百万円です。

負債の総額は 3 億 6 百万円で、うち 2 億 17 百万円が前受金で、57 百万円が預り金です。

貸 借 対 照 表

平成 26 年 3 月 31 日

(単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	846,017,763	921,237,167	△ 75,219,404
有形固定資産	842,755,263	919,819,857	△ 77,064,594
その他の固定資産	3,262,500	1,417,310	△ 1,845,190
流動資産	1,201,510,310	843,367,321	358,142,989
資産の部合計	2,047,528,073	1,764,604,488	282,923,585

(単位 円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	6,699,194	8,680,665	△ 1,981,471
流動負債	299,166,779	305,927,422	△ 6,760,643
負債の部合計	305,865,973	314,608,087	△ 8,742,114
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金の部合計	1,281,963,719	1,264,556,576	17,407,143
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	本年度末	増減
消費収支差額の部合計	459,698,381	185,439,825	274,258,556
科 目	本年度末	本年度末	増減
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	2,047,528,073	1,764,604,488	282,923,585